

平成 21 年 10 月 1 日

21 年第 2 回運営推進会議議事録

参加者 保健福祉課課長 村瀬 様
包括支援センター 谷口 様
緑町町内会長 首藤 様
緑町町内会副会长兼施設部理事 松木 様
緑町民生委員 天満 様
介護プランセンターしやきょう 寺谷 様
なるかわ病院医療相談員 山村 様
特別養護老人ホームゆうりん施設長 浜田 様
ケアハウスフェニックスコート施設長 山口 様
図鑑認知症を支える会会长 佐藤 様
緑町長寿会 伊藤 様
GHハッピードウナン 中村・吉田・萩原
GHハッピードウナンⅡ 伊倉・久貴谷

<内容>

中村：佐々木病院のあとに、3階建ての共生型のホームを作る。七飯町には学童が足りなく、1階に学童、同じ階に地域密着型のデイサービス（若年性認知症）渡島管内の図鑑、七飯、森の若年性認知症と診断された方の統計をみると、図鑑 20 名、七飯 8~4 名、森 4 名、鹿部 2 名ときいている。45 歳が過ぎて認知症になった方、それは、働き盛りの主人だったり、奥様だったりする。七飯町の企画財政課の新事業として許可され、若年性認知症の方々をサポートしていきたい。2 階は、少し物忘れがある人、若干お手伝いが必要な方、介護保険外だが 8 名、3 階は喫茶店を作り、若干お手伝いが必要な若年性認知症の方が、そこで働ける場として、少しでも小遣いなればと考えている。そこでは弁当を作ったり、モーニング、ランチを提供したり読書をしながら、ほっとした気持ちでふれあいが出来たらと考えている。エレベーターも設置するため車椅子の方でも気軽に来れるようになっている。大野平野が一望できる。

平成 22 年 1 月には完成し 2 月にはオープンする予定でいる。建物自体は「船出」の思いから、船をイメージしている。

若年性認知症でも七飯町で暮らせて、それを全国に展開していきたいと思っている。なるかわ病院に協力を得ながら行っていきたい。

外部評価を受けた。3 年位受けていなかったが、制度も変わり受けた。外部評価を受けるには 10 万円かかり、評価には時間もかかる。評価では、夜間を想定した避難訓練の実施、災害対策マニュアルの作成、非常食の確

保などのご指摘があり、災害対策として話し合いをしなくてはいけないと思っている。ホームが災害にあうと、近隣でも災害を受けると思うが、その様な時の避難場所はどこあるか。

村瀬さん：鳴川は振興会館、緑町は緑町町内会館が避難場所になっている。ここは 1 次避難場所で、2 次 3 次の避難場所まである。町のマニュアルを参考にしてほしい。

中村：これは緊急の課題で、ひだまりさん含め話し合って行かなくてはいけないと思っている。また、ご家族さんとも相談しながら話し合って行かなければならないと思っている。

外部評価は毎年続けて、来年もやって行きたいのでよろしくお願いします。

松木さん：外部評価とはなにか。

中村：国の指定期間から来る調査員がきて調査し、その情報を公開する。機関は色々あるが道社協が一番安い。

松木さん：わかりました。

中村：2 月に福岡県大牟田市の池田さんより SOS ネットワークの取り組みについて、お話を聞いていただき、実際に、9 月 12 日 13 日と村瀬課長、首藤会長と大牟田市に行って来た。（皆で地域を支えて明るくいきましょうという趣旨）

首藤会長に、お話をお願いする。

首藤さん：町長の代わりで参加し責任重大だった。

お昼に到着し午後、小規模多機能ホームミニアムを見学した。名前の由来は外国人の名前を取り入れた。施設も新しく、近くにはいろいろな施設もあり、15 人位の、老人が来て、また家に帰る、必要によっては泊まったりと多機能性を生かし、認知症の方も含め泊ったり泊ったりしている。

地域で見守る体制ができており、夕方、市営住宅の下に福祉施設があり見学した。そこではビデオで子供達に認知症の説明をし、何人かのグループでグループワークがなされ、それを発表したり、子供の頃からの教育がなされていた。それに参加した方も取り組みについて話し合いがなされていた。

18 日は朝 7 時前から大牟田市役所に行き集会がなされ、8 時 30 分から模擬訓練がされた。市内 18ヶ所の学校区で取り組まれていた。

集会後は警察署に行った。警察署に連絡が入り消防署と SOS ネットワークにファックスで流れ、消防署は職員にネットで情報を流す現場を見た。

つぎに白川という地域に行き、1 人にサポーターが 2 人つき、地域の人が発見したら、声をかける、声掛けしたらカードをもらうという仕組みであった。

七飯町緑町ではどうするか考えた場合、どうなるのか考えさせられた。緑町でも現実に徘徊があった。地域のネットワークで、どうカバーしていくか考えさせられた。貴重な体験が出来、感謝している。

村瀬さん：大牟田市を見てこようと発案し、町長もと思っていたが抜けられない公用ができ、地域の代表として緑町町内会長さんに参加していただいた。

社協が、になっている地域福祉推進事業があり、地域の中で高齢者を見守ろうという活動があるが、さらに一步踏み込むというかたちが SOS ネットワークである。地域の方が生活している中で出来ないかと考えるが無理だと統かない。大牟田市は人口 10 万人、七飯町は約 8 万人、まずスタートの違いがある。七飯町は家族が警察署に連絡、

捜索願いをだすと図書館の中央署、消防署北斗市になる点が大牟田市との違いで、大牟田市でやっている事は嬉しいが、組織的にやるのは可能なので地域の方々に負担にならないようにスタートしていくのが望ましい。認知症について地域の方々や子供達を教育する者は社会福祉法人のスタッフや福祉施設の職員がおこなっている。七飯町であれば生涯教育委員会（地域福祉推進事業）で町内会単位になる。地域推進事業は七飯町においてメリットとなっている。

福島に行って來たので、何か行動におこせないか、地域の中で認知症のみならず、何か体制作りをしていかなければ考えている。それは、あらためた体制作りではなく、日常生活の中での体制作りをし、出来る事から行い、それを土台にし毎年改善し最後には目標に到達出来ればと思っている。

北海道の高齢化率は 28%、七飯町は 26%、大牟田市は 20%で、大牟田市は中間施設（老健）が多かった。

介護保険の本来の目的は在宅である。養護老人ホーム、特養など施設にアンケートをとったら、自分の地域で住みたいと言う思いがあるも、「周りに迷惑がかかるから」、「家族に負担をかけたくない」と言う理由で入所しているのが現状である。

介護度 8 までは居宅で生活が出来るのが介護保険だった。小規模多機能がたくさんあれば自宅にいてもサポートしていく。大牟田市には 28~26ヶ所あり、人口の比率からすると七飯町には 6~7ヶ所が必要で、それだとサポートが出来る。小規模多機能の理念が普及されていないのが現状である。社協や包括に普及活動を願いたい。

町のモデルが緑町だった。見守り活動が一番行われておりコンスタンートに定着している。そこには認知症高齢者グループホーム、障害者グループホーム、身体障害者施設がある。実践者は民間レベルで行う。行政を動かすには教育委員会、総務課も動かさなくてはいけない。来年負担にならずに何ができるのか、SOS 構擬訓練を参考にハッピーを中心に徘徊高齢者の構擬訓練を緑町よりスタートし発信して行きたい。日常回観板を主わし、気強って行うのではなく、フォアッとした中で、しつこく根強くやっていくのが理想である。

20 年位前に 9 校の小学校に 4 年 5 年 6 年生を対象に福祉雑本プレゼントした経緯がある、子供の教育は学校にお願いし、主導的役割をするのは社協でやってほしい。

まずはあまり気張らず無理のない中から出来ればいいなと思っている。

中村：白川 2009 では「となりぐみ」をうたっている。ちゃんと見て行こうという思いである。そこには 200 人のボランティアがいる。

ありがとうカードを配り、それには、その人の特徴が書いてあり、その人に声をかける。声をかけてくれた人には、ありがとうカードを手渡す仕組みだ。

そこにはネットワークの配置や、いろいろな人の団わり、あらゆるところが参加しサポートしていた。

来春に徘徊模擬をはじめるか、それも一つの方法論かと思っている。

今この場の会議だけではなく村瀬さんにも協力していただき、また他の事業所さんにも協力してくれるところを募り参加協力していただければと思っている。

村瀬さん：行方不明者がでて、すぐに地域にお願いして皆で探してほしいと言うのなら、すぐには役場総務課（防災担当もしている）に連絡する。役場より警察署に連絡し手続きをとるが、但しお金が発生する。包括さんも協力してほしい。

中村：包括さんには全面的に協力いただきたいと思っている。

谷口さん：わかりました。

中村：このような取り組みに対してどう思われるか。

佐藤さん：そういう方にあい、何をしていいかわからなかったが、どうされたかと話をしながら近くの店に連れて行き警察に連絡した。また、うろうろしていた人とも出会い、警戒しないように声掛けした事もあったが、そういう時はまず役場に連絡するよう町内会の皆さんに伝えてほしい。とにかくどう声掛けしていいかわからなかった。

中村：そのためにも勉強会、白川でも行っていた。

今後、役場、緑町町内会、包括、家族と話し合いをしていかなくてはいけないと思っている。勉強しながらスタートしたい。

松木さん：認知症だけではなく、これから話し合いや勉強会を地域でやって行かなければいけないと思っていたところだった。

中村：これをきっかけに役場が発信し、法律は谷口さん、認知症は地域ではキャラバンメイトが説明。何度も懇親し手伝ってくれる事業所さんを募り、役場、町内会を含め勉強会を負担にならない程度ですすめていきたい。来春、皆でカレーでも食べながらやりたいのでお願いします。

中島さん：（嗚）：やった方がよいと思う。協力します。

但田さん：（歓）：いいと思う。まったく事情がわからず、そのようなネットワークがあれば安心だ。

中島さん：（緑）現実的な問題でもあり、ぜひやってほしい。その時は協力する。

伊藤さん：お金の問題が一番心配である。若い方など勉強して行きたい。

浜田さん：地域とともにお互い助け合って協力したい。

山口さん：地域の社会福祉施設として協力して行きたい。

松木さん：町内会も目的は親睦と福祉、今は+アルファーがついて時間がかかるがやっていかなくてはいけないと思っている。やらないよりやったほうが良いと思う。

天満さん：当初から見守りの対象は高齢者で認知症はわからなかった。緑町には民生委員が 4 名いる。施設もでき、つっこんだ話し合いをして住民の意識改革はじめ、実際に動いていった方が良いと思う。

中村：他の民生委員さん 4 人も集まって 11 月に、もう一度話し合いをしてはどうか。事業所は包括と組んで集約してほしい。一步一歩進んで行きたい。

村瀬さん：年内に 1 回打ち合わせをし、2~8 月にまとめましょう。次回は児童館、会館で 1 時くらいから行ってほしい。

中村：10 月には案をさしあげ、勤務時間中の 18 時~から児童館や福祉センターで来月、中位に行いたいと思うのでよろしくお願いしたい。